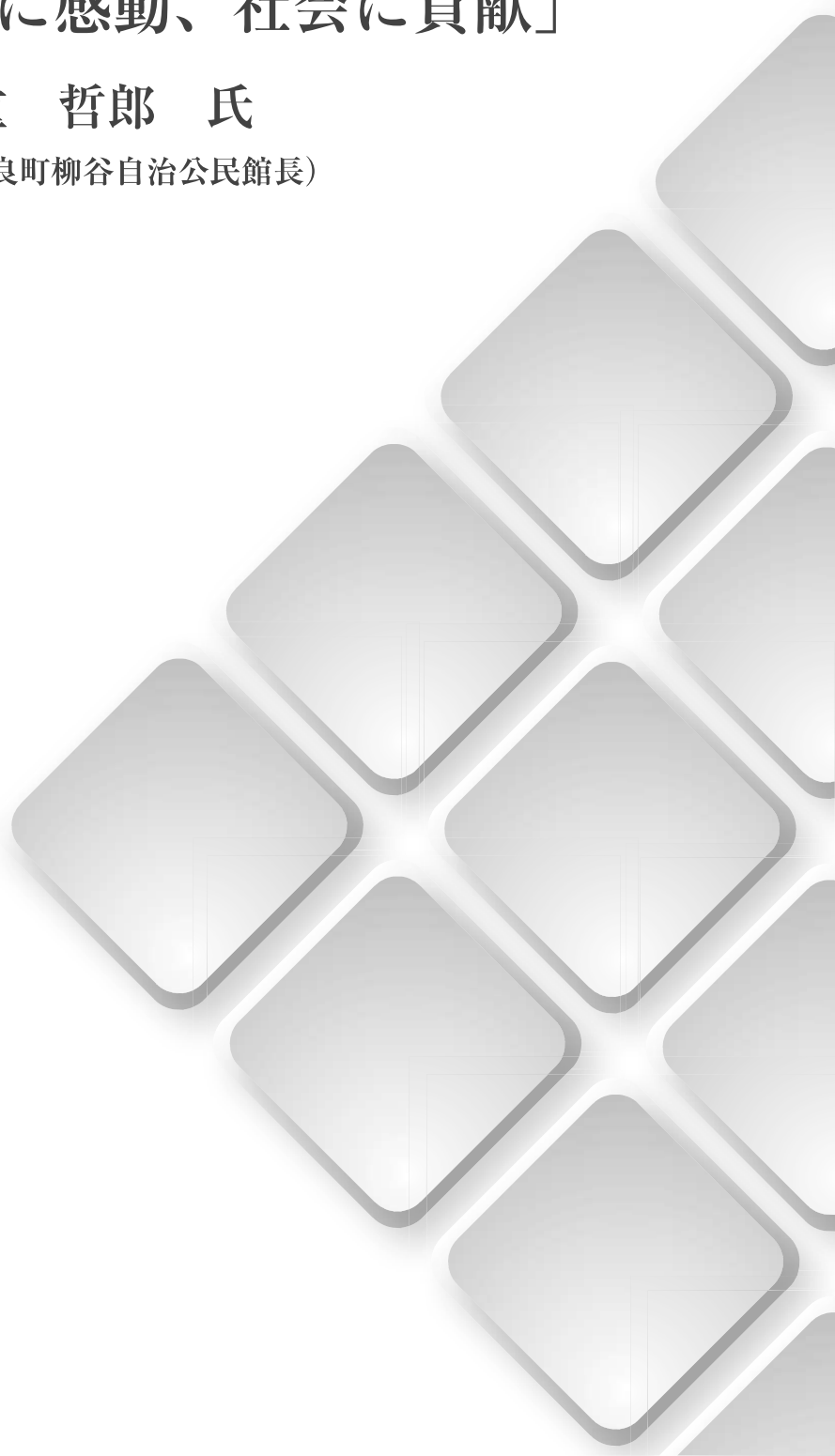


■ 基調講演

「旬の活動で己に感動、社会に貢献」

豊重 哲郎 氏

(鹿屋市串良町柳谷自治公民館長)



皆さん、こんにちは。ただいまご紹介にあずかりました鹿屋市柳谷の豊重でございます。

きょうは出会いがございまして、先ほど踊りながらこの会場に駆けつけてまいりました。かねがねの福祉の皆さん方の御足労に対して心から御礼を申し上げたいと思います。常々ご苦労さんでございます。

それでは、柳谷は本当に小さな小さな集落でございます。ただし、今は、10年という活動が実を結びまして、きょうは参議院の国会でも総理大臣が「柳谷（やねだん）」という言葉を発してくれました。それは私が感動を受けるだけじゃなくして、鹿屋市民一同が心からきょうはテレビにくぎづけの人もおったのではないかと思います。

それでは、まず、柳谷ってどんなところかということ去年の1年間、たった5～6分しか収録してありませんが、まずそちらを見ていただきたいと思います。

それじゃ、ミキサーの方、DVDよろしく願いをいたします。

[ビデオ放映]

皆さん、去年の1年間という経過の6分間のビデオですけれども、皆さん、ここまで来るためには大変だったんですよ。涙の出ることいっぱいあるんですよ。社会はね、まことに勝手なんですわ。いいことをして当たり前という社会が今、蔓延し過ぎているんですわ。やっぱり大切なのはね、底力なんです。

皆さん、どうでしょう。きょう7つの団体が本当に表彰をお受けになりましたよね、おめでとうございます。その役員の皆さんを含めて、支えた協議会の委員の皆さん並々ならぬ、憎まれ役の人もおったでしょう。でも、こういったときにこそ明るい話題、できそудというカリスマ性のあるやっぱり役員がいなかったら。今のメディアを見ると、暗いニュースばかりが続いている日本と私は考えられてしまったら、子供たちかわいそうじゃありませんか。そういう形で、受賞された皆さん、これからこの受賞をまた糧にして、あしたに向かって前進あるのみ「エイエイオー」、頑張ってください。

ところで、皆さん、テレビでありましたようにね、人口がなぜふえてくるのかと、全体的に考えたら日本中減少になっていくんですよ。50年後は9,000万人ぐらいになるとか言っておられる社会の中で、なぜというのは、ポイントで動いています、今は。求めている人たち、何だろうかなということですよ。



ですから、柳谷はスタートからこうなったんです。65歳前後の1年交代の輪番制で自治公民館長を選挙で選んでいたんです。私が55歳になったときに高齢者の人たちが、「10年早いけど、哲郎に振ろうや、託そうや」というまとめ役がおったというのが後でわかったんですわ。選挙させるときに総会の座長は私がやっていたんですわ。投票させたら、90%「豊重哲郎」と来たんです。

これから私に心をくれたのが2つ目は、私がちゅうちょした。もう次は、ことしはだれと大体うわさが流れておったこの時期が13年前なんです。ところが、私がちゅうちょしていたら、高齢者の女性、男性何人かが拝むようにして、涙して祈るようにしていた。「哲ちゃん、頼む」という感じが私に伝わったんですわ。私はこのときに思いました。「そうだね」って、「社会は頼まれているときに最高だよ」ってというのが僕、生まれて初めてわかったんですわ。

そうしたときに条件をたった3つ、自分の中で考えました。その1つは、「まず、自分たちでできることは自分たちで、溝さらいから、枝打ちから、除草作業からやろうじゃないか。行政に頼らなくてもできる範囲をやろうじゃないか」という言葉を発してしまったんですわ。「お



れに任せた以上は、唐突だけど」と言って、「行政に頼らないむらづくりをやりましょ」と言ったら、「待て」と来たんですわ。「おれたちが推薦したのは、おまえの人脈なら補助金ももらってくれるだろう」と、まあ普通の人はこちら考えるよね。

そこで、私は、すぐ即答しました。それは何かといいますと、皆さん、よく考えてください。行政は、延々と日本を動かすリーダーであること間違いないんですわ。日本は、世界も行政の依存型の国づくりをやってきているのは否めないんですわ。それを「だめ」と言っているんじゃないんですわ。行政もパートナー、パートナーとは「一緒に活性化のむらづくりに動きましょや」というこれが原点の私の基本なんですわ。だから、行政はパートナーでいいよねというのが1つ。

2つ目には、財源がなかったら、何かしようと思っても、会費まで、経費まで自己負担までさせる役員、館長だったら、「おいどんが選んだ哲郎もやっぱし並だわ」って、「それならもう何もしないほうがいいわ」というのが、今までのリーダーの動きが私は察していたので、「1円なりとも経費も出させません。企画は私も出します。ただし、財源、金が欲しいし、金がなかったら教育も福祉も整備環境もできませんよね。だったら、財源のためにあなたの耕し

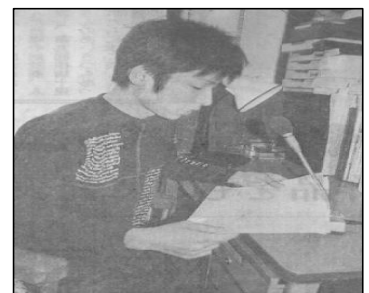
ていない畑を貸してくれませんか」と、こう出ちゃったわけや。そうしたら3人がすぐ手を挙げた。「よか、おまえが言うとはよか」って。こうやって皆さん、不の財産、「不」とは負ける「負」じゃないんです、不満の「不」。この財産が柳谷の底力に変わってくるんです。

例えばね、感動のむらをつくるためには仕掛け役がいなかったら絶対にだめだというのはみんなわかっているわけ。ところが、何を仕掛けていくかというのに、みんな外からコンサルタントを呼んでみたり、いろんな学者を呼んでみたりして、何かってみんな金使ってまでもね、行政もまだこの形が多いんですわ。私は逆をしたんです。柳谷を動かすためには、一番先にしなければならないのは何かということが2年かかりました。これができたから3年目から、だったら財源稼ぐためには芋を植えようや、土着菌つくって環境整備して、これで金稼いでもおかしくないよね。

こうやってスタートから2年間は柳谷の底力の底力は何だったかという、不満を言っている人をいかに取り込むことができ、その人が輪の中に加わって、できればその人が「おいが言うとおりにすれば、柳谷はみんな人がついてくるのよ」という、そういった主軸にさせるために私は2年かかったんです。これができたから、みんな今は「よかねえ、柳谷な」って。昔だったら「ばかんよな」って、「奉仕か、うっかたが行けばよかとよ。何が地域活動か」ってこういう人たちが、まあ柳谷はいたけど、皆さんの地域はいないかもしれません。要するに、できる人たちだけで前に進むことを私はやめたんです。なぜかといったら、これは地位で物を言うリーダーには人はつかないんですわ。だから、その逆が、不満を言う人を動かすには皆さん、どうしたと思いますか。私がいえば、「ああ、そうだね」って言うよね。

例えばね、柳谷は、一番最初に私が取り組んだのは、母の日、父の日、敬老の日がございませよね。一番最初に取り組んだのは泣かせること、すなわち感動を与えれば必ず感謝に変わって、寄り添ってくるっていうのを私は体験をいっぱいしています。皆さんもしていってほしいでしょう。ところが、あっち向いている人を泣かせるというのはちょっと難しいわね。

メッセージ放送。高校生クラブをつくって、高校生に外からメッセージがFAXで送ってくると、高校生が代読するわけ。母の日の朝6時半から、皆さん、「故郷（ふるさと）」の音楽が朝ぱーんと「いかにいます 父母」って、上手でしょう（拍手）、流れてきたとしますよ、朝。皆さん、どんな心境になりますか。鳥肌立つ人がいるかもしれませんよ。孫や子供の異郷で生活している人を思い浮かべて涙出る人がいるかもしれませんよ。要は、心を開かせることができるかっていうことですわ。だから音楽を流してい



るんです。その次に流れてきたのが、高校生がメッセージしますとね、例えばこんなメッセージが、これは1回目の最初のメッセージなんですよ、13年前。今も流れているんですよ、13年間続いているんですよ。

うちの地域は全部有線放送で、各戸別にスピーカーが部屋の中にあるんです。財源が400万円たまったから、10年目に有線放送の全部ケーブルを取っちゃって、今、電波で飛ばしているんですわ、250万円かかりましたよね。これも財源から1円も拠出させないで、転入してきた人も含めて、2万2,000円するスピーカーを全部つけてあげているんです。ここまでやっている最初の有線放送でこのおばちゃん、テレビを見られた方は、たくさん今まで柳谷いらっしゃるでしょう。

このおばちゃんはね、こんなおばちゃんです。大変失礼な言葉ですけども、生活保護をもらいながら、そして鹿屋のデパートの和裁の仕事を我が家でしながら、単車にしか乗らないで、でもこのお母さんは、だんなさんは、加治木に療養所が当時ありましてね、日曜日のたびに2時間かかって加治木まで雨が降っても15年間通い続けられた、そのさなかのお母さんです。子供は上小原小・中学校を卒業して、1人は東京学芸大学という鹿屋高校で何人もとおれないレベルの学校にストレートで入学して、読売新聞の奨学金をもらって、そして朝方、折り込みと新聞を配達しながら、神奈川でストレートで卒業して、塩野義製薬という一流の薬品会社に就職したのを見届けるようにして、加治木のベッドでおやじは亡くなったんですわ。私は、この時期が、テレビ、新聞で報道されるそれは何だったかっていうとね、不登校、いじめの一番最盛期のころです。そのときに私は一番最初にこの娘にFAXをくれと、「母の日に今から3~4人メッセージを毎年流すんです。原稿をください」と言ったら、こんな原稿が流れてきたんです。高校生は泣きながらこれを読みましたよ。

「感謝の気持ち。母の日だからといって、その日だけ特別に母親に対して感謝したりプレゼントするのは間違っている。本来なら日ごろから常に感謝の気持ちを持ち、表現しなくてはならない。せわしい日本の中で私も社会人として忙しい日々を送っている。結局、私も偉そうなことを言っているが、忙しさを理由に母への感謝の気持ちを忘れかけている。だから、母の日をかりて言いたい。お母ちゃん、産んでくれてありがとう。お母ちゃん、育ててくれてありがとう。お母ちゃん、見守ってくれてありがとう。地域の皆さん、一人ぼっこの母をよろしく願います」と、こうやって皆さん、高校生が読んだんですわ。皆さ



ん、どう思いますか。

この後にこんな文章が来るんです。これは模範生の家庭ですよ。父の日のメッセージにこんな文章が来るんです。「私ももう35歳になり、2児の母になってつくづく親の気持ちがわかるようになりました。兄弟の中で一番親に手を焼かした私ですが、今は自分なりに一生懸命頑張っています。お父さんとはよくぶつかり合い、数多くのけんかもしてきましたね。お父さんは、私が家出をしたりして、私の写真をいつも持って警察に走りましたね。そのころのお父さんは人の話を聞く人ではなかった。何か話そうとするとすぐ手の出るお父さんでした。私は物心がついてから嫁に行くまで、お父さんは怖い人だと思っていました」。読めない、今でも読めない。「豊重、大嫌い」というお父さんを泣かすためのこれは、たまたまこれが流れてきたんですよ。

そうやってね、「私は物心がついたときから家を出るまでとてもお父さんが怖い人だと思っていました。いろいろあったからこそ今の私がいることができると思う。お父さん、私に人間としての厳しさ、我慢強さ、そして思いやりを教えていただいたこと、心から感謝しています。生きていく中でとても重要なことを教えていただき、人に迷惑をかけず、人に対しいつも思いやりの気持ちで過ごしています。こちらのほうでいろいろなボランティアなどにも参加させていただいております」という。

皆さん、もし私の立場に皆さんがなって、このFAXが流れてきたとしますよ、勇気ありますか。多分、なぜそこまで読まなきゃならないのと皆さん拒否するでしょう。人間は、ここなんです。勇気と度胸は時にはどんとやらないと、この文章がまずかったからといって、今、社会は昔と変わって人権じゅうりんとか保護とかね、先行し、走り過ぎておりませんか。

私はそれをもう一回自分に置きかえたとき、おれは300人の館長だと、おれが都会のこの娘さんに感謝の、便せん1枚でいいから皆さんが聞いている感謝のメッセージをちょうだい。父の日に高校生がメッセージで代読しますということは打ち合わせ、了解のもとで送ってきたわけです。内容が悪いからといって読まなかったとしたら、うちの家内は言った。「お父さん、あんたはこれを読んだら殺されるよ。読みなさんな」と僕に本当に読ませようとしなかった。断った私が成功した。「わかった。おれが土下座すればいいんだ。絶対情熱のある人には必ず人がつくのよ」というのが私の信念でした。

読んだ最後には必ず私がマイクをとります。「皆さん、メッセージの高校生に拍手をお願いします。許可なく放送したことをお許してください。今から高校生と原稿をお届けに参ります」と言って、ブーツと走っていきますと、このお父さんは涙をいっぱい浮かべて、僕の左を

指さして「小組合長」と言った。昔は小組合だったから小組合長の感覚でしょう。今は鹿屋と合併したから町内会長です。「おまえは」って来た。来たかと思ったら、「偉い」と来ましたから、一遍に僕、涙が出ました。ですから、皆さん、「芋も送らない。タケンコも送らん。ちまきどこいか米も送らん。こいつはね、一番不良だったんや。おれがとことんやったその償いに、こいつだけにはと送っているけど、もう送らない。おれ、いつ死んでもいい」っていう会話に変わったんや。この人が芋植えになったら一番先に来るようになったんです。私が言おうとしている意味がわかりますか。

もう1つ大切なことは、もしこれを私が読まなかったとして、家内も私も「ああ、もう事が起きなかったからよかった」と思っていたら、忘れたところに「お父さん、私のメッセージどうだった」と必ず会話が始まるよね。「何か、それは。いつだ。小組合長、おまえは」、こうやって来ること間違いないですよ。要するに、私たちは何しななければならないかといいますと、やっぱり先を読まなければだめだということと、もう1つは、大切なのは他己満足。自己満足の社会はやめたほうがいいというのが私、主義なんです。みんな自分を基本にして満足しているか、感動か、得かと考えているリーダーは、他人を犠牲にする可能性が高いんです。だから、私は、他人の「他」、自己の「己」、他己満足社会を柳谷つくるためにはどうしたらいいかというこのことは、最後は「推薦をした私を使い上手に皆さんうまく使ってください。私は何でも使われますから」と、この姿が見えないリーダーには地位とかプライドとかそういったもので物言うから、社会の人はつかないというのが私、2年間でとくとわかりました。

ですから、皆さん、2年間の苦労というのはまだいっぱいあります。この中で、もっと苦労が外へ出ないのはワイフです。ワイフとは、日本語で家内です。鹿児島弁で柳谷では「うかった」です。何といってもパートナーは夫婦なんです。ごめんなさいね、ひとり暮らしの方には。でも、墓地から見守って、みたまというのがあるんです。だから、こうやったことを常に私たちは考えていけば、やっぱり次にしなければならない項目は、不満な人が動き出したから、次は、不満の次に大切なのは不安です。

柳谷で一番不安な人、何だと思えますか。振り込め詐欺でしょうか。違うんです。孤独死なんです。ひとり暮らしになってくると、こんなことを聞きますよ。「哲ちゃん、夕方暗くなれば男もだれもうちには来ないよ」と。意味がわかりますか。すなわち、男衆はこうやって地域では未亡人の人たちに心や手や助言をしようと思うんだけど、なかなか世間体があるという表現ですよ。そこへ持ってきて夜中にぐあいが悪くなったとき、子供は東京で出世しているけど、電話すらない。電話しても間に合わない。だから、地域の大変な不安の解除はやっぱり

2つありますよ。

1つはね、教育です。「他人の子供のために泣くことができる柳谷」というのがテーマなんです。他人のために泣くことができる柳谷というのが「生きた福祉」と私は提言してきたんです。だから、孤独死が、私が心配したさなかに2人亡くなって、こたつで2日後に見つかったんですわ。私が役員を、館長を引き受けたその翌年、2日後にわかったんです、こたつで。私これを聞いたとき、今だと思った。それは何かといったら、旬、柳谷が今しなければならない、急がなければならないのは何かといったときに、緊急警報装置を考えついたんです。ぐあいが悪くなったら枕元にあるベルをスイッチすれば、集落のメイン通りに赤色灯とベルができていますわ、押せば「ブブブブブッ」と、だれか消しに行かないと、一日中、一晩中鳴りっぱなしや。

畑にもしみんなが出ていて、昼間押されたとしますよ。学校、就労婦人いっぱいいて、高齢者しかいません、柳谷は。夜中に押すのはだれでも気づくけど、昼間は気づかないかもしれない。でも、気づく人がいるんですわ。だれだと思えます？ 犬です。危機感のときの犬のほえている声を聞いたことありますか。ベルが鳴りますと、犬はこんな声を出します。「ウォウォウォー、ウォー、ウォー、ウォッ、ウォー、ウォッ」と1匹が鳴くと、ずっと集落の犬が全部鳴きますよ。うそじゃないですよ。だから、皆さんが帰られたときにね、かねて「ワン、ワン、ワン、ワン、よかにせ、よかにせ」と鳴いている犬の鳴き声と変わって危険信号の犬の声、これどこの犬も一緒なんです。こうやって畑におる人が「おお、犬が鳴いている」と、これ奇跡なんですわ、3人救われたんです。たかが1人と思わないでください。

ですから、皆さん、なぜ孤独死が怖いかというその行く末は、「隣の人、何する人ぞ」という社会はだめですよ。少なくとも、都会型であろうが、柳谷みたいな地方型であろうが、隣近所プラス半径100メートル、直径200メートルの円を描いてみてください。あなたの周囲に何十人住んでいますか、何百人住んでいますか。まず近隣の人たちと会話ができ、フルネームがわかって、顔、顔、顔がわかる社会のスタートを切らないと、本当に社会はとてもしゃないけれども、守り切れませんよ。



だから、近くの他人を最高のパートナー、これがエネルギー源になって、柳谷は300人を、孫も、じじも、ばばもみんな名前と顔がわかってきたのが、畑に集落の人たちが芋植えに子供

から老人から出てくるから、そこでもう目と目とアイコンタクトやいろんな会話ができる、「おめえはどこのだいじゃね」と、バツジなんか要りませんわ。

だから、皆さん、教育とは、社会教育とは、出番を引き出すこと以外にありません。教える立場の人は自己満足、でも対象者は300人だから、出番をいかに引き出す知恵とアイデアを仕掛けていくかというのがおもしろいんですよ、これがね。おもしろいから奇跡が起きるんですわ。奇跡が起きるから、次へまた向かっていくから、私、年取らないと思うんですわ。私だけじゃなくて集落の人たち、多分。

だって、そうでしょう。最初から、3年目から芋を植え始めましたよ、30アールから。後に1町歩になりました。70万円、80万円ですわ、収穫が。100人出てくるようになったから、芋植え3時間で終わるんですもんね。帰るとき何ちゅうかという、「哲ちゃん、もう



3時間だったら、来年なまた倍せんか」という感動が出てくるんですわ。ここです、大切なのは。本論は必ず奇跡を生んで、付録がメインになってくるから、1つは、仕掛けたら、掛ける5ぐらいの効果が必ず出てくるということです。

もう1つ大切なことは、ボーナスなんて全然気にしていないんです、私も。でも、当てにしていなかったところに「ボーナス」と言ったから、みんな、わっと来たんですわ。2回目にやると言ったときは、もう今度は要らんと来たんですわ。なぜでしょう。

だから、皆さん、1つは、文化を語る柳谷にやっと私が到達したんです。

私は串良商業高校を卒業して東京の銀行に就職して、東大、学習院、早稲田という大学生と一緒に就職をした昭和35年、初任給8,500円で、「到底支店長にもなれん。やめた。帰る」と言って、29歳で親の反対を押し切って私はUターンして、柳谷でウナギの養殖を始めました。借金3,000万円つくりましたよ、施設で。オイルショックが来ました。計算しても一次産業、これ本当にだめだと思ったから、鹿屋の警察署の横で「うなぎの川豊」というウナギ屋を40歳でスタートさせました。3,000万円プラス金利プラス23万円のレンタル料を払って、「60まででおれ返すわ」と。銀行員はこう言うんです。私の経験です。借金を殺してまで日本は取らないんです。ここだけは孫や子供に教えとってください。銀行だったら殺してまで、脅迫してまで絶対に取りませんから。甘えるなということじゃないんです。企業会計原則という原理があって、それを返金できる方法を教えてくれるのも金融なんです。だか

ら、共存なんです。私は逃げなかった。そうやって55歳で借金が本当にゼロになったんや。

子供3人。きれいな長女でしょう、2人目は美人、3人目は最高のウーマン。今、ボストンに留学して、シアトルでマイホームを持って、アメリカ人と結婚して、オバマが勝って喜んでますわ。6人孫がいるんです。一番金の要るときに40から、100円現金収入、安心安全ということで私はウナギ専門店を立ち上げたんです。こうやって皆さん、人間の力というのはね、最後は楽しまなかったらだめです。

意味のわからない人、こういう説明でどうでしょう。体が一番状態のいいときは快眠、眠りが楽しくて快眠できたら最高なんですわ。あしたのエネルギー源のもとなんです。寝れなくなったら必ず便秘が来るんや。快眠、快便、快食なんです。おいしく食べられて、味がわからなくなったら終わりなんですわ。微生物の力を含めてね、細胞活力が源ですわ。だから、快眠、快食、快便で終わらないでほしい。きょう来られた人、快話、お話の「話」と書いてください。楽しい話、快話を追加してください。夫婦で楽しく笑って、のどちんこが見えるぐらい笑って会話ができる社会をつくりましょうや。口もあけないで、歯ぎしりして、手までやっていたら、本当にしわがふえるどころか、人が見たときに本当に、話しかけよう、寄りつこうとする姿がなくなりますよ。

だから、柳谷の行き着くところは快話だったんです。話題も楽しく、トーキング。わかりますか、トーキングという意味が。わかるよね、漫談をすることをトーキングって言うのよね。だから、投げかけられたら笑って、またギブ・アンド・ギブでいいや、もらわんでもいいの、与えれば。これができたから、今、柳谷は笑っていますよね、多分。

だから、皆さん、お願いいたします。まとめは、たった1つや。それは何かっていったら、自己、一人ひとりを自分を磨くこと以外にありません。他人のせいにはしないためにも、幾つになっても一人ひとりがやっぱし1日が旬、「ああ、きょうはよかった。あと2時間ハゲの話を聞きたかった」というぐらいのリーダーも時には、皆さんがその時ぶりを自分に置きかえてください。マイクやりましょうか。

もう1つ大切なのはね、私ね、ちょっときょう忘れ物しちゃったんや。だれかハンカチ持ってないかな。私はね、いつもハンカチ持っているんですよ。こう言えばだれか持ってくるんだけど、だれも持ってこないわ。

皆さん、こうしてください。私のところに年間、

